

KEYAK! 10月号 けやきようちえん

2017.9.29

秋晴れの続く中、ニンジャが出現した時のことです。その日はくのいち忍者が姿を見せてくれたのですが、彼（彼女）？が去ったあと、年中さんたちは一斉にニンジャが姿を消した方向へ向かって大声で「ニンジャさーん！にんじゃさーんっ！」と何度も叫んでいます。ちょうどそんな時に私がその方向から出てきたので、子どもたちは一同に「ニンジャ来た！ニンジャ見た？」とまくし立てます。そこで、あえてここで「実はね、ニンジャははやと先生だったんだよ〜！」と首にかけてたタオルを頭からかぶり、手裏剣を投げるまねやポーズをとってみせました。すると一同、「ニンジャはそんなオジさんじゃない！」「ニンジャはそんなにグラグラしない！」「ねえ、だからニンジャ見た？」「どっち行った？」ときた。少しでも疑ってくれるかと思いきや、近所のオッサンがばかこいてるくらいにしか映らなかったようです。

あーそうですよ！オジさんはニンジャじゃない。ニンジャにもならなくていい。オジさんは、あなたたちになりたい！

体操のタイゾー先生もこんなことを言っています。子どもたちと向き合っていると、その純粋さ、その眼差し、その表情の素敵さにはかなわない。さらに何かができる時の彼らは、表情に出る子も出ない子も、瞳の奥に必ず輝きが出る。ハイタッチするときわかります。

「褒めて伸ばす」という言葉を改めて実感する。と。

運動会へ向けて各学年とも、取り組みに試行錯誤しながらも頑張りを見せています。頑張りという点では、子どもたちだけでなく、先生たちが張り切っている姿も、とてもよく私には見えます。また、取り組みと言うくらいですから、最初から当日まで同じことをひたすら繰り返すわけではありません。園のほとんどの取り組みがそうですが、先生と子どもたちとの間にいろいろな始まりがあって、それぞれのやり取りがあって、だんだんと確立されていく。つまり段階を経て成長・向上していくからこそ、ひとつひとつの取り組みに対してそれぞれの物語が生まれてくるのだと思います。そして、そのストーリーがあるからこそ、子どもたちにとって印象に残る出来事として、胸の奥に刻まれていくのだと思っています。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ 簡単な集団遊びに興味をもち、ルールなども理解してくる
- ・ 運動会が終わった後も、友達とかけっこやダンスをしたり、年中・年長児の競技をまねたりしながら、新たな遊びに挑戦してみようとする

4歳

- ・ 散歩などをしながら、秋の自然に興味、関心をもち、触れて遊ぶ
- ・ クラスのみんなと一緒にする遊びや活動に、喜んで取り組もうとする
- ・ 仲間のよさを認め合い、評価し合える雰囲気ができる
- ・ 自分なりの思いやイメージをいろいろな方法で表現したり、相手に伝えようとする

5歳

- ・ 運動会を体験したことにより、クラスや学年など集団のまとまりが強くなっていく
- ・ 友達と考えを出し合いながら、互いのアイデア、イメージを共有できる
- ・ 様々な材料に触れ、素材の特徴を感じながら、製作あそびを楽しむ